

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

アート・クロスロード・プロジェクト

所在地	東京都中野区	設立年	2021年
運営主体	東京大学教育学部 東京大学芸術創造連携研究機構(以下、ACUT) 東京大学教育学部附属中等教育学校(以下、附属学校)の連携組織「東京大学アート・クロスロード実行委員会(以下、実行委員会)」		
事業目標	a) 文化倶楽部の指導に従事する学校教員の負担の軽減、b) 多様な文化芸術活動に関わる機会の提供、c) 生徒が取り組む文化芸術活動のさらなる質の向上、d) 地域格差の軽減のためのICT技術の試用、e) 他校の生徒たちや地域の人々との文化芸術活動を通じた交流を試みる。		
きっかけ	芸術的な感性が求められている現代において、表現活動や表現領域に関する第一線の研究者が多く在籍している東京大学の強みを活かし、専門家との交流の場や、文化的な教養を身につける機会を全国に広げ、これからの社会に役立つ芸術的な感性を育てていくこと、ひいては指導にかかる教員の負担等の部活動が抱える課題解決の一助となることをめざして、上記の運営組織が連携し、本活動が始まった。		
団体・組織等の連携	<p>本事業では、附属学校、教育学部、ACUTの3つの組織が連携して運営する実行委員会が、アート・クロスロード・プロジェクト(以下、ACP)を開始した。そして、ACPへの継続的な参加を希望する附属学校の生徒(コアメンバー)を集め、「アート・クロスロードクラブ(以下、クロスロードクラブ)」を設立した。これらの生徒達を中心に、附属学校の全ての生徒、及び、遠隔地の他校の生徒にも新たな活動の機会を提供することを目指した。以下に組織図を掲載する。</p>		
活動場所	東京大学教育学部附属中等教育学校		
活動概要	クロスロードクラブのコアメンバーが主体となり、文化芸術に携わる研究者やアーティストによる講演会・ワークショップ等を定期的に行いながら、多様な人々(学年が異なる生徒、遠隔地の他校の生徒、アーティスト、研究者、大学生ボランティア、地域の人々など)が文化芸術活動の多領域にわたって交差する場(校内外をつなぎ、芸術の本質的な要素の体験を共有できる場)をつくり、オンラインを活用しながら全国に広げようと模索している。		

○本事業による成果

目標と対応した形で記述。

- a) コーディネーターや大学生ボランティアがコアメンバーの活動の指導・監督を担ったことにより、教員の負担軽減を図った。
- b, c) 様々な領域を専門とするアーティストや研究者・専門家の方々から話を伺ったり、共に表現活動に参加したりするなかで、生徒たちの探究心が掻き立てられ、興味の幅が広がり、自己の成長につながるさらなる学習の機会を得る契機となった。2020年には3回の専門家による講演会（建築、写真、ICT）と2回のワークショップ（ダンス、音楽）を行い、2021年には5回の講演会（メディア、教育、短歌、ICT、音楽）と1回のイベント（プレゼン大会）、3回のワークショップ（写真、美術、メディア）を行った。加えて、コアメンバーが主体となり、アーティストや研究者・専門家とともに芸術祭準備を進めることで、企画展の運営などのアート・コミュニティでの活動と類似した体験が可能となった。
- d, e) 附属学校内での取り組みであるため、生徒がいつでも気軽に参加でき、学年を越えての交流の場となった。また、学校ホームページやSNS等での情報発信を行うことで、ICT技術の活用によるオンラインでの参加枠を用いた遠隔地の他校や近隣地域からの参加者も募った。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・クロスロードクラブの活動では、講演会やワークショップなどを開催するにあたり、準備の過程を大切にしている。コアメンバーが主体となって講師とやりとりを行うことで、講師の専門分野と生徒が学びたいこと・実現したいことを踏まえた上でテーマを十分に明確化し、当日の内容を充実させている。
- ・活動を通して得た学びや成長を生徒が振り返る機会を積極的に設けた。
- ・文化芸術に対する生徒たちの視野が広がるように、日頃のやりとりの中で世の中のヒト・モノ・コトに関心を持つように促した。例えば、講師となるアーティストや研究者・専門家の専門分野について調べたり、企画を練ることをコアメンバーが担うことで上記のような資質の育成を目指した。

○運営上の工夫

- ・クロスロードクラブでは、定例ミーティング（週一から隔週の頻度で実施）を通して、それぞれの生徒の意見を積極的に取り入れる、生徒の裁量で新たな企画を提案するなど、一人ひとりの挑戦を支援し、相互に助け合える環境を実現した。
- ・ACPの活動をより多くの方々に知っていただくために、SNSでの活動内容の発信、企画ポスターの他校への送付などを積極的に行った。
- ・各運営主体の代表者が定例ミーティング（月一で実施）で情報共有をした上で、活動のサポート（講師の紹介、広報を含む活動の監督、コーディネーターへの指示出し等）をした。
- ・附属学校の生徒以外の関係者も企画に参加できるよう、各講師との相談の上で、対面とオンラインの両方に対応できるように企画内容を工夫した。

○継続的な運営に関する課題・展望

・活動の運営にあたり、①企画(企画立案、テーマ決定、講師との打ち合わせなど)、②広報(チラシデザイン、SNS発信など)、③企画内容の記録(動画・写真撮影、編集など)、④ICTの活用(機材セッティング、Zoom配信など)、⑤外部対応(参加者への案内の送信、問い合わせ対応など)の各部門に、現在、それぞれを得意とする生徒や大学生ボランティアを配置することで、講演会やワークショップを高頻度で開催してきた。今後、活動を継続していくにあたって、卒業によるコアメンバーやボランティアの入れ替わりに対応するために、各部門を継続的に監督する専門的なコーディネーターを設置することを検討している。

・音楽やダンスなどのワークショップに遠隔地の他校の生徒が参加するために、音質や臨場感ができる限り損なわないよう、より高性能な機材(マイクやビデオカメラなど)を十分に揃える必要がある。

・上記の課題はあるものの、多彩な講師陣から生徒が直接学べる利点は大きく、既存の部活動では触れることができない表現領域や領域横断的な表現活動を体験する機会を、ICTを活用することで附属学校の生徒や遠隔地の他校の生徒に提供するACPの活動をこれからも継続していきたい。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

今年度の活動を軸に、引き続き、コアメンバーの主体的な活動をコーディネーターや大学生ボランティアが監督する形で活動を継続していく。

①企画②広報③企画内容の記録④ICTの活用⑤外部対応などの各部門でのメンバーの入れ替わりに対応するために、それぞれの部門において必要な知識を有する地域住民や保護者に積極的に協力を求めることを検討している。

より高性能な機材を使用することで、附属学校の関係者や遠隔地の他校の生徒にも、音楽やダンスなどを含む多種多様な表現領域の活動をリアルタイムで体験できる機会を提供していく。

参加者 (予定人数)	附属学校の中学1年生から高校2年生が約30名参加している。
募集方法	ポスター掲示やチラシの配布、SNS等を使って年間を通じて募集している。
指導者	・コーディネーター(教育的知見を有する人材) ・外部講師(アーティストや研究者) ・大学生ボランティア
移動手段	徒歩、自転車、公共交通機関
活動費用	講師謝礼 5,700円(1時間)×講演・ワークショップ・レクチャー時間 ワークショップにかかる材料費 8,000-20,000/回
スケジュール	2021.7.3. WS(ワークショップ)「『映る』を写す、写真のしおり」講師:仁科勝介(写真家) 2021.7.21. イベント「プレゼン大会～あなたの思う一流を紹介しよう～」 2021.7.22. 講演会「オペラと声～ひとは高い声に憧れる?～」講師:長木誠司(東京大学大学院教授) 2021.8.3. WS「削って、溶かして、世界にひとつ～ロストワックス鑄造で好きなものを作ろう～」講師:藤田航(附属学校教諭) 2021.9.11. 講演会「情報技術による体験拡張」講師:苗村健(東京大学大学院教授) 2021.10.9. WS「医学×芸術～私たちの身体が医学と芸術を繋ぐ～」講師:AMSS(学生団体) 2021.10.30. 講演会「クイズの秘密～『?』で読み解く現代社会～」講師:丹羽美之(東京大学大学院教授) 2021.11.13. 講演会「『自分ごと』を探究する～教育で持続可能な社会を創造する～」講師:北村友人(東京大学大学院教授) 2022.3.20-21. イベント「東大附属芸術祭」
保険加入等	講演会やワークショップの活動のため保険加入せず。

【活動の様子（写真添付）】



ワークショップ開催に向けて、会場設営をし

講演会の開催に向け、生徒が講師とZoom打合せをしている様子。



講演会を附属学校とオンラインで開催している様子。

AMSS(学生団体)の映像作品を鑑賞している様子。



配信の準備、プレゼン資料や歯科医の流れなどを確認している様子。

活動のコンセプトをもとに、生徒がデザインした実行委員会のロゴマーク。